

VI 高次脳機能障害の方を 対象とした調査

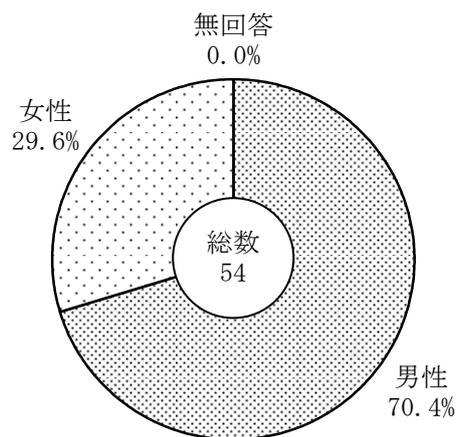
1 ご本人について

(1) 性別

問1 ご本人の性別をお聞きします。該当する番号に○をつけてください。

「男性」が70.4%、「女性」が29.6%となっています。

問1 性別

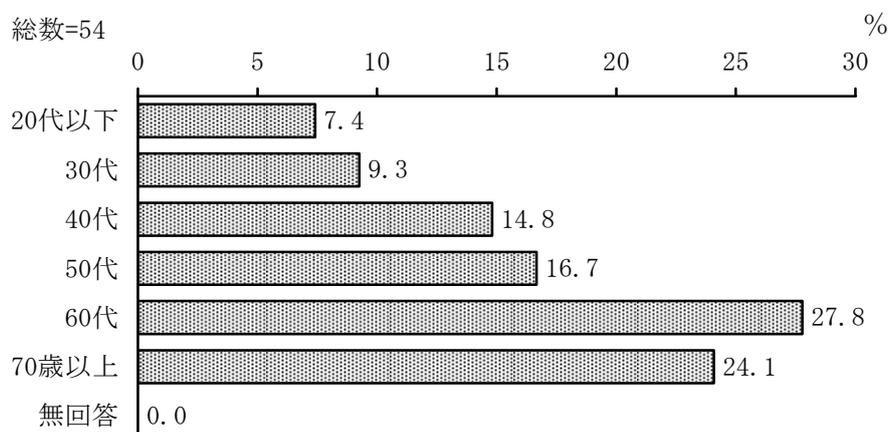


(2) 年齢

問2 ご本人の年齢をお聞きします。

「60代」が27.8%と最も多く、次いで「70歳以上」が24.1%、「50代」が16.7%、「40代」が14.8%となっています。

問2 年齢

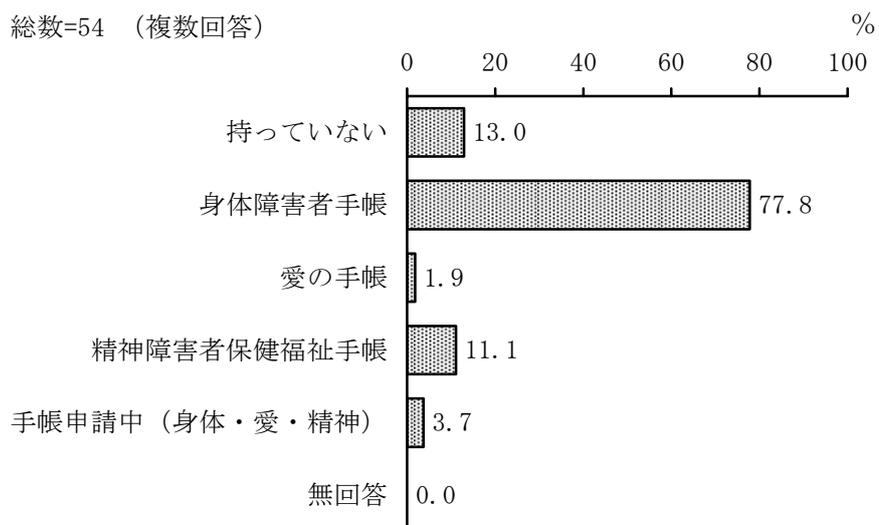


(3) 障害者手帳の有無

問3 ご本人は障害者手帳をお持ちですか。該当する番号に○をつけてください。

「身体障害者手帳」が77.8%と最も多く、次いで「持っていない」が13.0%、「精神障害者保健福祉手帳」が11.1%となっています。

問3 障害者手帳の有無

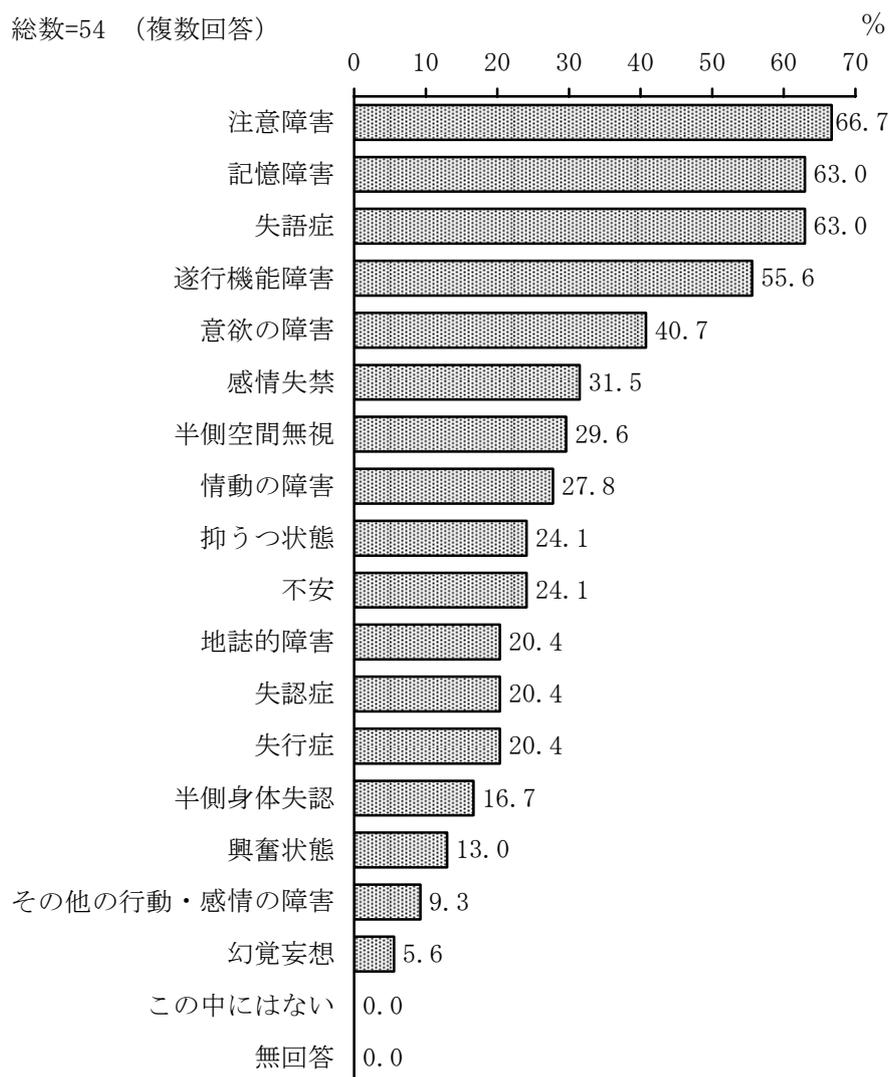


(4) 高次脳機能障害の症状

問4 ご本人には、次のような症状がありますか。該当する番号いくつでも○可。

「注意障害」が66.7%と最も多く、次いで「記憶障害」と「失語症」がそれぞれ63.0%、「遂行機能障害」が55.6%となっています。

問4 高次脳機能障害の症状

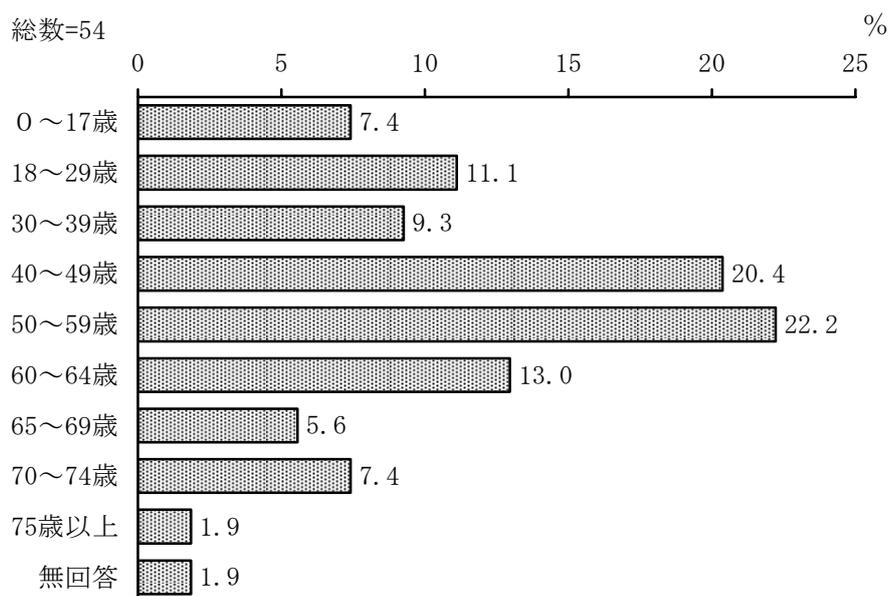


(5) 障害が生じた時期

問5 ご本人に障害が生じたのは何歳のときですか。番号に○をつけてください。

「50～59歳」が22.2%と最も多く、次いで「40～49歳」が20.4%、「60～64歳」が13.0%、「18～29歳」が11.1%となっています。

問5 障害が生じた時期

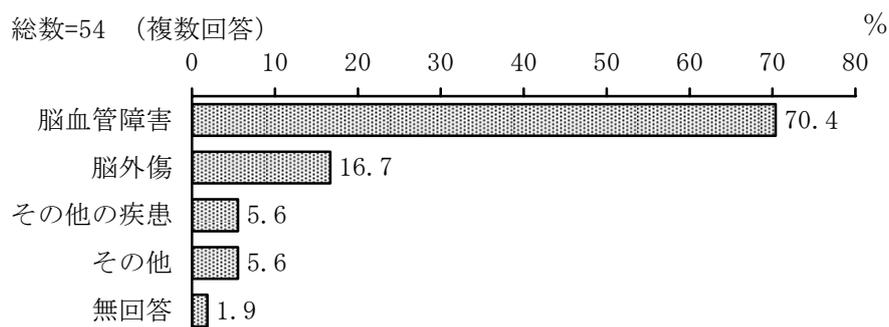


(6) 障害が生じた原因

問6 ご本人に障害が生じた原因は何ですか。番号に○をつけてください。

「脳血管障害」が70.4%と最も多く、次いで「脳外傷」が16.7%、「その他の疾患」が5.6%となっています。

問6 障害が生じた原因

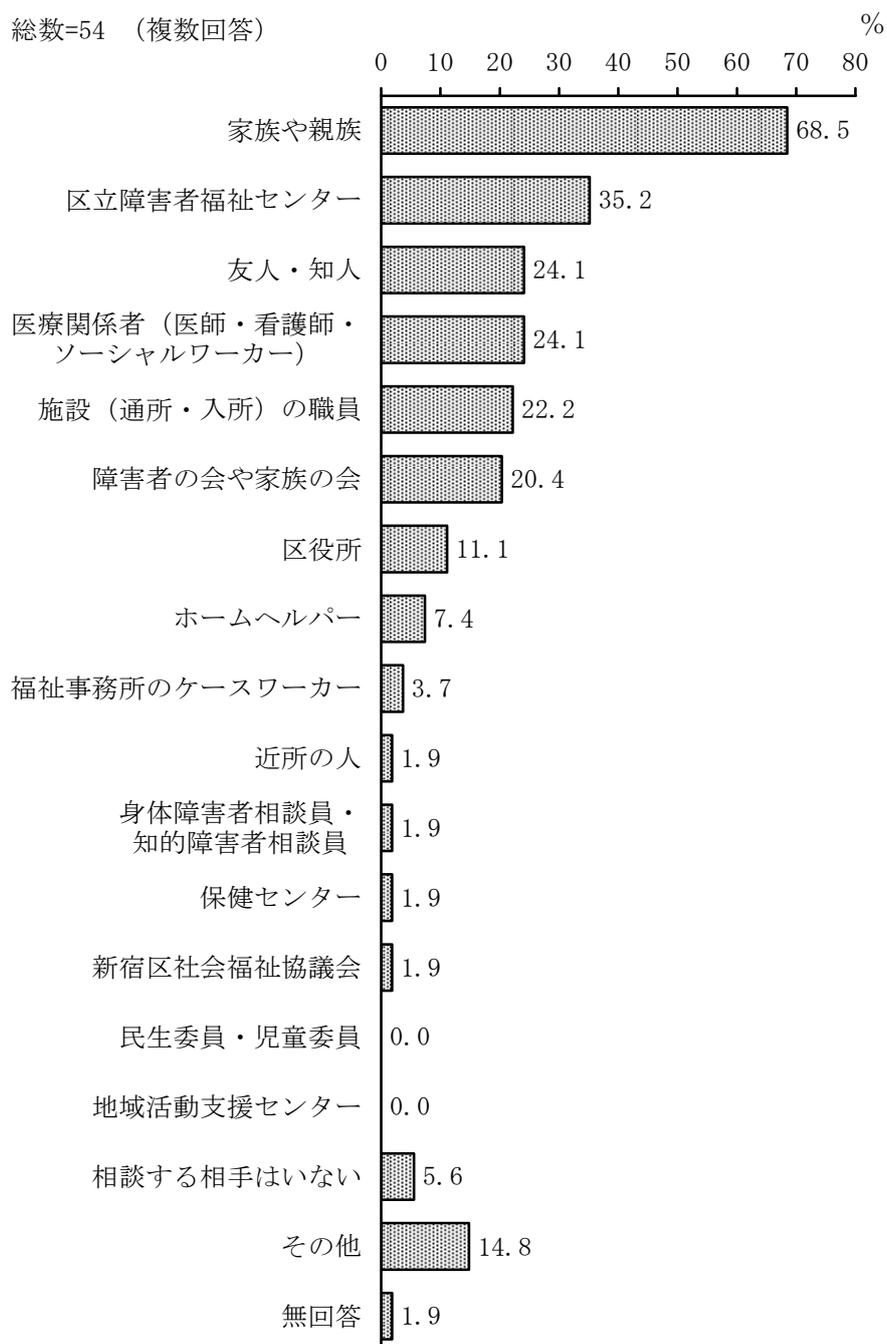


(7) 困ったときの相談相手

問7 ご本人やご家族の方が困ったとき相談する相手は誰ですか。

「家族や親族」が68.5%と最も多く、次いで「区立障害者福祉センター」が35.2%、「友人・知人」と「医療関係者（医師・看護師・ソーシャルワーカー）」がそれぞれ24.1%となっています。

問7 困ったときの相談相手

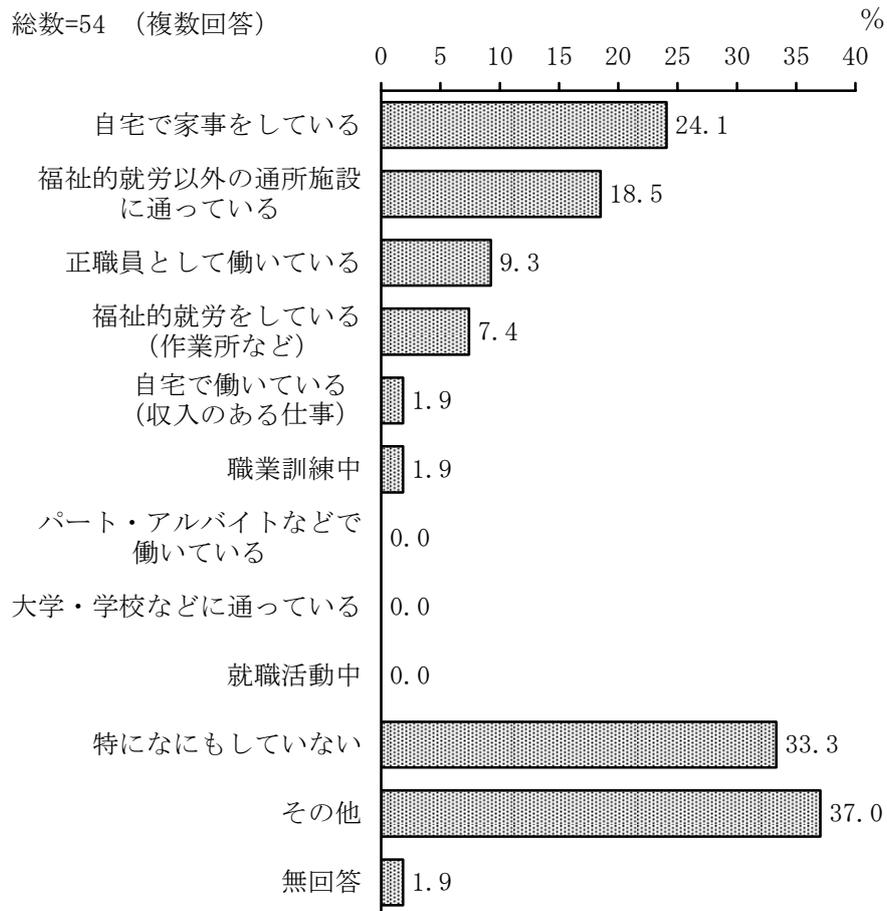


(8) 日中の過ごし方

問8 ご本人は、平日の日中、主にどのように過ごしていますか。

「自宅で家事をしている」が24.1%と最も多く、次いで「福祉的就労以外の通所施設に通っている」が18.5%、「正職員として働いている」が9.3%、「福祉的就労をしている（作業所など）」が7.4%となっています。

問8 日中の過ごし方

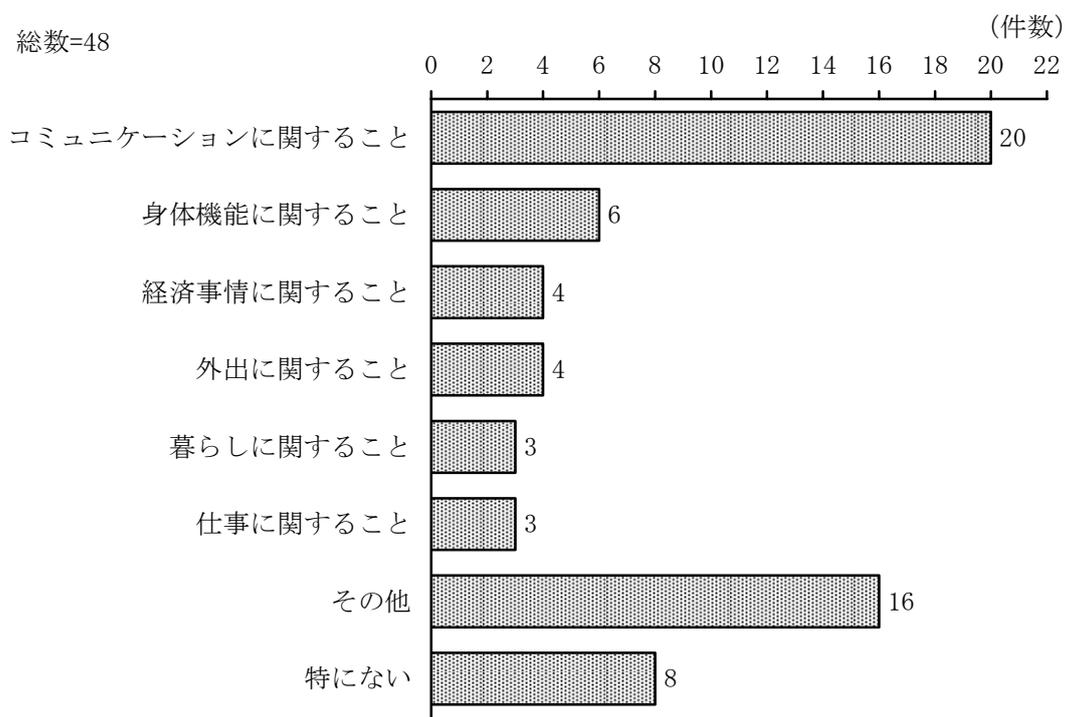


(9) 日常生活で困っていること

問9 ご本人が日常生活について、困っていることや不安に思っていることなどがありましたら、ご自由にお書きください。

「コミュニケーションに関すること」が20件と最も多く、次いで「身体機能に関すること」が6件、「経済事情に関すること」と「外出に関すること」がそれぞれ4件となっています。

問9 日常生活で困っていること

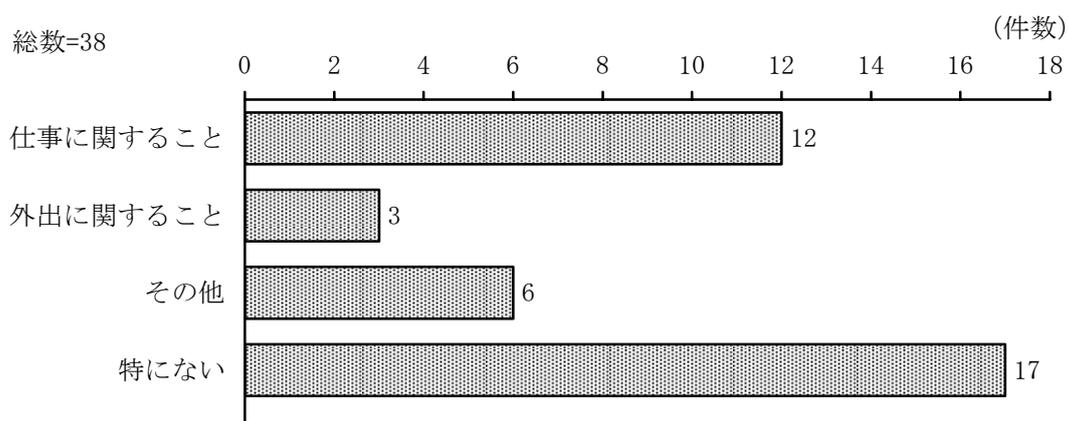


(10) 就労や日中活動等について困っていること

問 10 ご本人が就労や日中活動等について、困っていることや不安に思っていることなどがありましたら、ご自由にお書きください。

「仕事に関すること」が 12 件と最も多く、次いで「外出に関すること」が 3 件となっています。

問 10 就労や日中活動等について困っていること

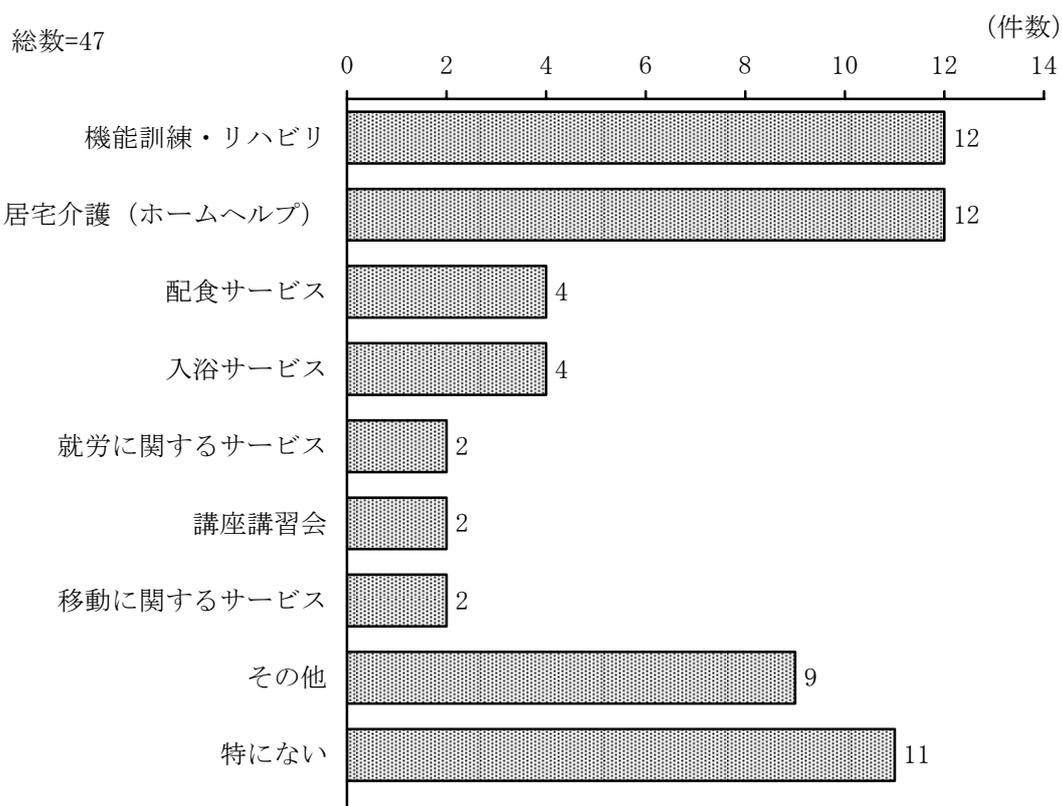


(11) 利用しているサービス

問 11 ご本人は現在、福祉などのサービスを利用していますか。利用している方はサービス名またはサービスの内容をお答えください。

「機能訓練・リハビリ」と「居宅介護（ホームヘルプ）」がそれぞれ12件と最も多く、次いで「配食サービス」と「入浴サービス」がそれぞれ4件となっています。

問 11 利用しているサービス

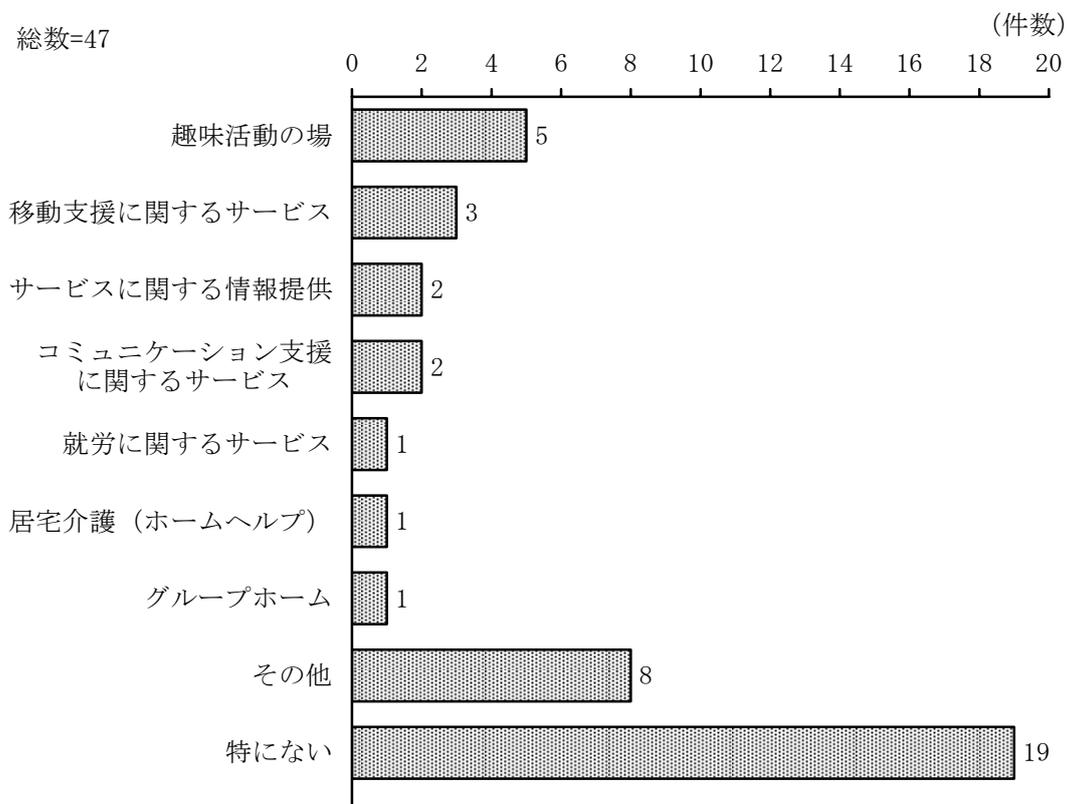


(12) 利用したいサービス

問 12 ご本人が今後、利用したい福祉などのサービスはありますか。サービス名またはサービスの内容をお答えください。

「趣味活動の場」が5件と最も多く、次いで「移動支援に関するサービス」が3件「サービスに関する情報提供」と「コミュニケーション支援に関するサービス」がそれぞれ2件となっています。

問 12 利用したいサービス



(13) 自由意見

問 13 その他、区に対するご意見やご要望などがありましたら、ご自由にお書きください。

「行政・制度」についての意見が 16 件と最も多く、次いで「支援体制の整備」についての意見が 15 件、「障害への理解」についての意見と「生活環境」についての意見がそれぞれ 4 件となっています。

問 13 自由意見

	全体	行政・制度	支援体制の整備	障害への理解	生活環境	その他
全体	21 100.0	16 76.2	15 71.4	4 19.0	4 19.0	4 19.0

* 複数の分野にまたがる回答については、それぞれの分野の集計数に含まれています。

○主な意見

ここに掲載したのは回答の一部です。カッコ内は（年齢・性別／調査票の記入者）です。紙面の都合で回答の一部を省略・要約している場合があります。

①行政・制度（16 件）

「役所、病院等で失語症に対応できる人材を常駐して欲しい。」（47 歳・男性／ご本人）

「発症後期限が来たら医療によるリハビリが受けられず、また介護保険のサービス（デイサービスなど）を受けると在宅リハビリも受けられない。」（60 歳・男性／ご家族）

②支援体制の整備（15 件）

「失語症でうまく話したり、理解したりできない方を助けてくれるガイドヘルパー（失語症会話パートナー）が公費で同伴して、いろいろな所（病院や役所などと）、趣味活動などにも自由に行けるようにしてほしい。」（60 歳・男性／ご本人）

「失語症があっても働く意欲がある方が安心して就労できる場をつくって欲しい。また、音声、言語機能障害の支援、サービスを増やして欲しい。3 級、4 級の障害者手帳のサービスの範囲が少ない。」（67 歳・男性／ご家族）

③障害への理解（4件）

「もっと失語症が様々な認知を得られるように宣伝などをして欲しい。」（53歳・男性／ご本人）

「高次脳機能障害について、最近は啓蒙、解説が少し目立ってきましたが、まだまだ不足だと思います。更にその機会を増やして頂くことを希望します。」（51歳・男性／ご家族）

④生活環境（4件）

「高田馬場をバリアフリーにしてほしい。車イスを父が押せない（リハビリするのに・・・）。」（36歳・女性／ご本人）

「歩道内には身体障害の方々も同じように歩行致しますので、自転車のある程度の規制をお願いします。特に新宿区内は坂道が多いため同じ歩道を、子供自転車、成年自転車等ありますので配慮をお願いします。」（70歳・男性／ご家族）

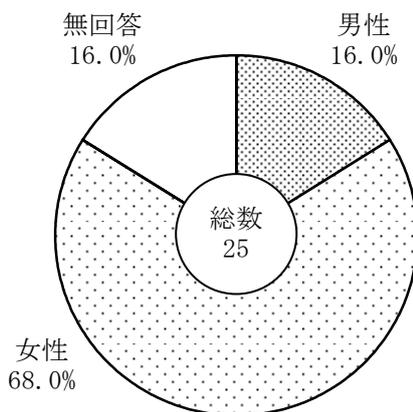
2 ご家族について

(1) ご家族の性別

問1 ご記入いただく方の性別をお聞きします。番号に○をつけてください。

「男性」が16.0%、「女性」が68.0%となっています。

問1 ご家族の性別

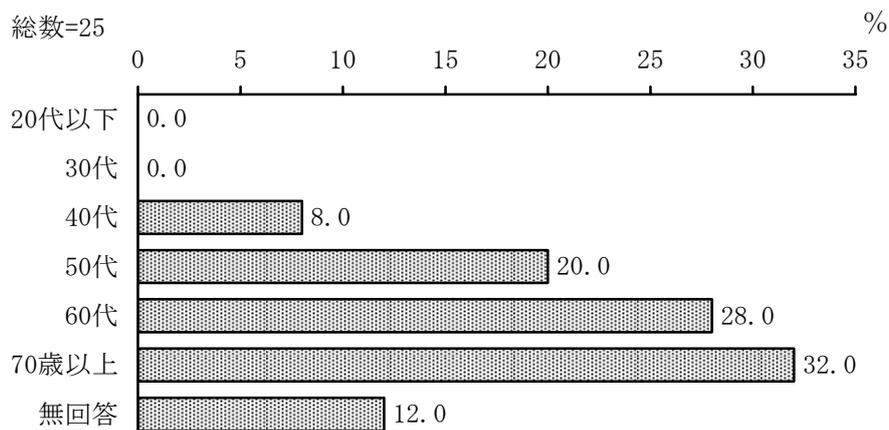


(2) ご家族の年齢

問2 ご記入いただく方の年齢をお聞きします。

「70歳以上」が32.0%と最も多く、次いで「60代」が28.0%、「50代」が20.0%となっています。

問2 ご家族の年齢

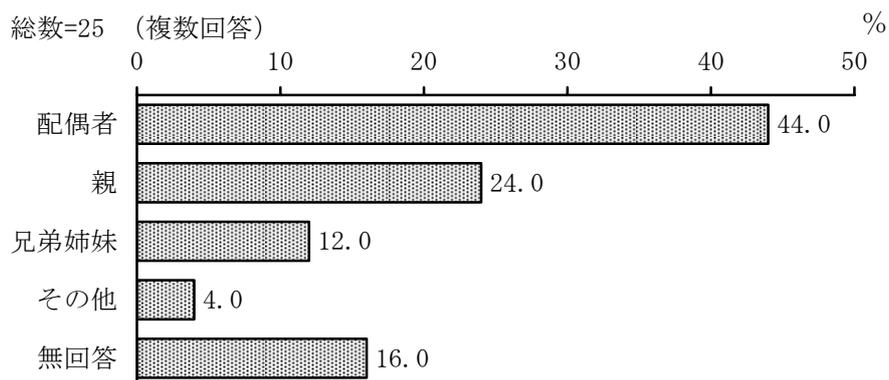


(3) ご本人との続柄

問3 ご本人（障害のある方）との続柄を記入ください。

「配偶者」が44.0%と最も多く、次いで「親」が24.0%、「兄弟姉妹」が12.0%となっています。

問3 ご本人との続柄



(4) ご家族の自由意見

問4 ご記入いただく方の自由意見欄

「支援体制の整備」についての意見が10件と最も多く、次いで「ご本人の症状」についての意見が8件、「ご本人の将来の生活」についての意見が6件となっています。

問4 ご家族の自由意見

	全体	支援体制の整備	ご本人の症状	ご本人の将来の生活	行政・制度	介助の負担感	その他
全体	12 100.0	10 83.3	8 66.7	6 50.0	2 16.7	2 16.7	3 25.0

* 複数の分野にまたがる回答については、それぞれの分野の集計数に含まれています。

○主な意見

ここに掲載したのは回答の一部です。カッコ内は（ご家族の年齢・続柄）です。紙面の都合で回答の一部を省略・要約している場合があります。

①支援体制の整備（10件）

「高次脳機能障害を理解している支援者、相談員による相談支援の必要性を感じています。一般企業の障害者枠で採用されることを希望していますが、その為のアプローチ、訓練、トレーニングのあり方、具体的方法、施設を用意して頂きたい。また経過を見ながらの継続的相談、アドバイスがあれば、親として助かり安心出来ます。」（60歳・父）

「主人が高次脳機能障害を持ってから病院やリハビリをする所を自分で調べ通所させて貰えるかなど話を聞き、手続きしなければ行けなかった。サポートしてくれる方もなく、色々なアドバイスをしてくれる人もなく、一人で判断しなくてはいけない事ばかりでした。受けられるサービスやサポートして下さる人、相談出来る場所などの案内もなく、投げ出したいやりきれない日々が・・・人それぞれ問題や状況も違いますが、相談窓口やサポート窓口などがあれば少しは違ったと思います。」（48歳・妻）

「当人が自分の障害に気づいたり、認めるのが困難。同じ高次脳障害者同士の交流で、認めるのを待っている。認めることが出来れば自覚的にリハビリに取り組むきっかけになるのではと思われる。」（57歳・姉）

②ご本人の症状（8件）

「記憶障害については、財布や杖、鍵などをなくしたり無くなったものを家族が盗んだと信じ込んだりして、家族も困っています。言葉の障害については、伝えたいことを伝えられず困る。ボディランゲージや絵を描いたり等で伝えているが感情表現をスキンシップで伝えることが多いので、家族以外で接する方の中にはそれを嫌がったり、誤解したりする場所があるのではないかと心配しています。」（43歳・妻）

「本人は特に考えていない不安にも思っていないようで、家族としてはその状態がかえって不安。」（48歳・妻）

③ご本人の将来の生活（6件）

「親亡き後の生活をどう設計することが出来るか、今後の課題とと思っているが、今のところ何も信頼出来ると思われるものが見えてこない。私達親が元気なうちに一人暮らしに移行していきたいと考えているが、高次脳機能障害を理解し、サポートして頂けるヘルパーさんがいらっしゃるかどうか。」（無回答）

「契約社員ではあるが、就労することが出来た。いつまで続くか親としては常に不安を抱いている。現時点では職場で障害をある程度理解して頂けているが、環境が変わった場合どうなるか不安である。また、私達親が元気な間は、それなりのフォローをしていくことが出来るが、いつかそれが出来なくなる時が必ずやってくる、その時どの様なサポート体制があるのか将来に向けて不安を常に感じている。」（無回答）

④行政・制度（2件）

「私は夫の介護をしています。両親の手前、福祉サービスがあっても利用に踏み切れないことも多々あり、介護の実情を相談することそのものが難しいのが現状です。今回のようなアンケートなどで定期的に実情やニーズを把握し、対応して頂けるような体制を整えれば有り難いです。」（43歳・妻）

「介護保険の認定調査項目の中に高次脳機能障害者が適合するような項目を加えて頂けますようお願い申し上げます。本人は認知症の症状は多くありませんので、老健から『介護に手が掛かって大変で見られない』との訴えを受けて、状態区分変更を申請しても介護度は上がりませんし、更新申請で主治医の意見書に高次脳機能障害の記載を欠いたり、老健を繋ぎ、特養待ちの本人は困った状況を経験しました。」（60歳・成年後見人）

⑤介助の負担感（2件）

「入所順位が介護度の重い方から優先的に入所出来る様ですが、介護している人間のことも考慮に入れて考えて欲しいです。」（68歳・妹）

「介護者が休日（土、日、祝日）に休めるような、宿泊や短期入所などを利用したいです

(定期的に)。年齢が若いので利用に制限があり、介護者は身体も気も休まる時がないと感じます。」(43歳・妻)

